

地域協働学部 カリキュラム・ポリシー

【教育内容】

地域協働学部の学士像（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、教室における知識の修得と地域の現場における実践の往還の中で「地域協働マネジメント力」を身につけることをめざし、本学部教育課程を編成しています。

1. 共通教育科目

人文・社会・自然の各分野にわたる幅広い教養を身につけるために、共通教育科目を配置しています。

2. 講義科目、演習科目

専門分野の知識・技法を修得するために、「総合科目」及び「地域協働マネジメント分野」、「地域産業分野」、「地域生活分野」の科目を配置しています。「総合科目」は、基礎的専門知識・技法を学ぶ科目と位置づけ、主に、必修又は選択必修として1年次を中心に配置しています。また、3つの分野においては、2年次以降に学生自らがめざす人材像を念頭に置きながら、各分野から1科目2単位以上を選択して専門分野の知識・技法を修得するよう科目を配置しています。

3. 実習科目

地域の特性を理解し、地域の人々と協働しながら、事業企画を立案・実施するために、「実習科目」を地域における実践を行う科目と位置づけ1年次から3年次まで必修科目として配置しています。

4. 地域協働研究

講義科目における理論的学びと実習科目における実践的学びを統合するために、「地域協働研究」を各学年の学修を総括し進級評価を行う科目と位置づけ、1年次から3年次まで必修科目として配置しています。

5. 地域協働実践・卒業研究

本学部における学修の集大成のために、「地域協働実践・卒業研究」を4年間の学びの成果を総括する科目と位置づけ4年次の必修科目として配置しています。

【教育方法】

1. アクティブ・ラーニング

学生の主体的な学びを促進させるために、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施します。

2. ルーブリック

学生の学修の到達度・評価基準を明確にすることで、学生自身が自己の学修到達度

を確認できそのことにより学修意欲が向上することをめざし、「実習科目」において、本学部が養成をめざす人材が身につけるべき「地域協働マネジメント力」を構成する3つの能力である「地域理解力」「企画立案力」「協働実践力」に関するルーブリックを用いて、学修指導及び学修評価を実施します。

3. フィードバック

学生の学修をより深めるため、「実習科目」における「実習振り返りシート」や「地域協働研究」における「学びの振り返りシート」に対するフィードバックをはじめ、各種授業科目で学生に対するフィードバックを用いた学修指導を実施します。

4. 面談

学生の学修状況を把握し適切な指導を行うため、「地域協働研究」において、年間4回の面談により学修指導を実施します。

5. チームティーチング

授業内容・教育方法をより高めるため、「実習科目」「地域協働研究」において、授業担当者会議の中で、授業内容の交流や調整及び授業に関するFDを行います。その他の複数教員が担当する授業でも、教員が相互に協力し合い授業を実施します。

【教育評価】

1. 学生の学修成果に関する評価

各学年末において、進級及び卒業に関して適切な能力を有しているか判断するとともに、学生の学修支援を重視しながら単位の実質化を図ることをめざし、進級評価・卒業評価を実施します。1年次から3年次までは、①GPAによる評価、②地域協働マネジメント力を構成する3つの能力の「ルーブリック」評価を含む実習科目の評価、③論理的な学びと実践的な学びを統合する「地域協働研究」における学年研究論文等の評価を総合して進級評価を実施します。4年次では、「地域協働実践・卒業研究」において、地域協働型プロジェクト実施・卒業研究の成果に基づき卒業評価を実施します。

2. 各教員の教育内容・教育方法の改善

各教員は、授業改善アンケートによる意見聴取や、学生面談による学修到達度の把握等に基づき、教育内容・教育方法の改善を行います。

3. カリキュラムの改善

学部は、「ディプロマ・ポリシーの到達度」「学修成果の到達度」等の指標に基づいて、カリキュラムを評価し、その結果を基にカリキュラムの改善を行います。